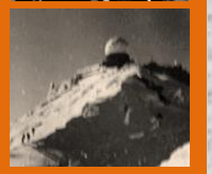
富士山測候所の施設

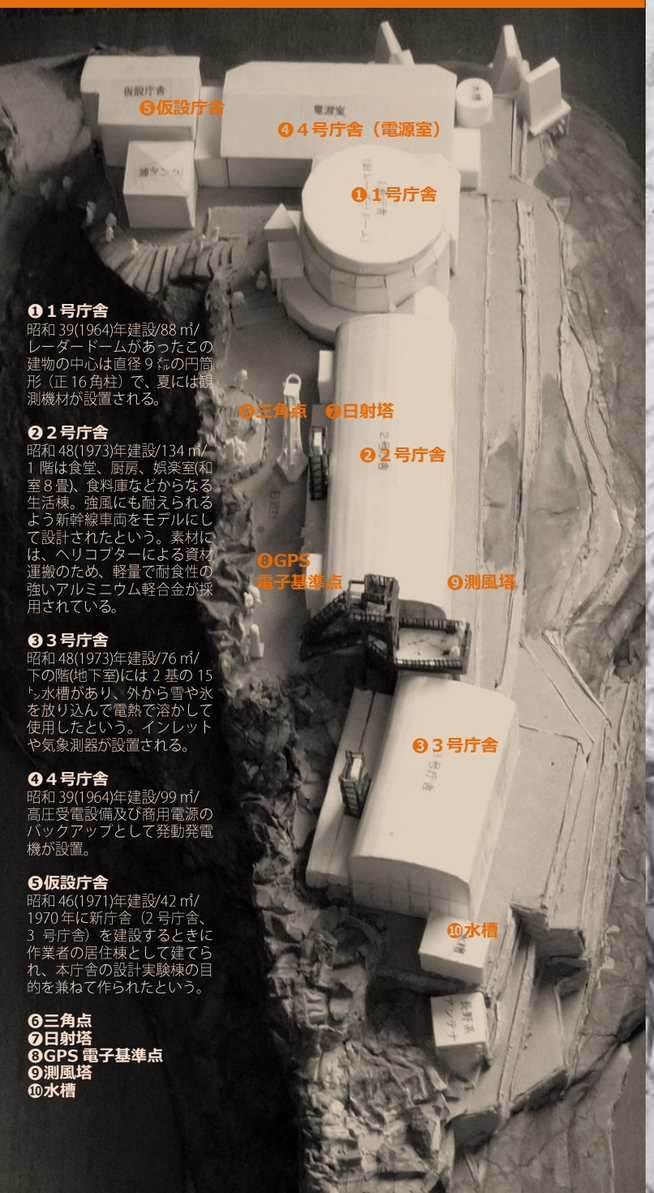


富士山における気象観測の歴史は古く、1895 年（明治 28 年）に野中至・千代子夫妻が私財を投じて山頂剣が峯に観測所用建物を建設し 10 月から 82 日間の観測を行ったのに始まる。その後、1930 年（昭和 5 年）に佐藤順一が強力（ごうりき）梶房吉の協力を得て厳冬期滞頂滞観測を成功させた。

1932 年（昭和 7 年）から通年気象観測を開始。1964 年(昭和 39 年）には 800ｋｍ先まで観測可能な富士山レーダーが設置され、台風の砦（とりで）として人命や財産を守り、世界に誇る施設となった。その後、気象衛星の発達によりレーダーの役割は低下、1999 年に運用を停止した。2004 年には 72 年間の有人観測の幕を閉じ、富士山測候所は無人化された。

富士山測候所の建屋は複数の庁舎で構成されており、延床面積は 200 坪を越える。山体の地盤に合わせた配置のため高低差があるが、各庁舎は渡り廊下で連結し一体化されている。１号庁舎と４号庁舎は東京オリンピックで沸く 1964 年（昭和 39 年）に完成、1973 年（昭和 48 年）には電力増強（6.6KＶ化）、通信機器の更新、２号庁舎と３号庁舎のアルミ合金構造建屋への更新などが行われ現在に至っている。

現在の正式名称は「富士山特別地域気象観測所」となっており、気象庁が無人で気温、気圧などの観測を継続している。富士山測候所を活用する会は 2007 年夏からその一部を借り受け、様々な研究教育活動に活用している。



❶１号庁舎
昭和 39(1964)年建設/88 ㎡/
レーダードームがあったこの建物の中心は直径 9 ㍍の円筒形（正 16 角柱）で、夏には観測機材が設置される。

❷２号庁舎
昭和 48(1973)年建設/134 ㎡/
1 階は食堂、厨房、娯楽室(和室８畳)、食料庫などからなる生活棟。強風にも耐えられるよう新幹線車両をモデルにして設計されたという。素材には、ヘリコプターによる資材運搬のため、軽量で耐食性の強いアルミニウム軽合金が採用されている。

❸３号庁舎
昭和 48(1973)年建設/76 ㎡/
下の階(地下室)には 2 基の 15 ㌧水槽があり、外から雪や氷を放り込んで電熱で溶かして使用したという。インレットや気象測器が設置される。

❹４号庁舎
昭和 39(1964)年建設/99 ㎡/
高圧受電設備及び商用電源のバックアップとして発動発電機が設置。

❺仮設庁舎
昭和 46(1971)年建設/42 ㎡/
1970 年に新庁舎（2 号庁舎、3 号庁舎）を建設するときに作業者の居住棟として建てられ、本庁舎の設計実験棟の目的を兼ねて作られたという。

❻三角点
❼日射塔
❽GPS 電子基準点
❾測風塔
❿水槽

富士山測候所の設営

富士山測候所（標高 3776 ㍍）

登山家で構成される山頂班は６月下旬には山頂庁舎の点検や除雪作業を行い、７月１日からの開所に備える。夏期観測期間中は 3 名が常駐し延べ 400 名から 500 名の研究者の山頂での活動支援にあたる。その業務は機材搬入・設置、研究補助から体調不良の研究者の対応まで多岐にわたっている。

太郎坊基地（標高 1300 ㍍）

富士山東南麓にある太郎坊は、富士山測候所を利用する研究者達の登山拠点。山頂に荷上げする大量の機材や食糧、飲料水などは開所前日中にブルに積み込み、翌早朝の出発に備える。ブルに搭載する荷物量はひと夏で 4 ㌧から 5 ㌧になる。

太郎坊では早稲田大学や東京理科大学が降水、エアロゾルなどの通年観測を行っている。

御殿場基地（標高 450 ㍍）

６月から８月までの３ヶ月間、御殿場市街にアパートを借り上げ、6 月中旬から山頂班数名が測候所周辺の除雪などの開所準備をするため、基地として利用する。７月、８月の観測期間中は 1 名が常駐し、山頂と事務局（東京）と連携し、研究者の登下山の支援や山頂への物資補給にあたる。利用者の多くはここに前泊し、翌朝５時前に車で太郎坊に向かう。

富士山測候所の電源

送電線（総延長 10,903 ㍍）

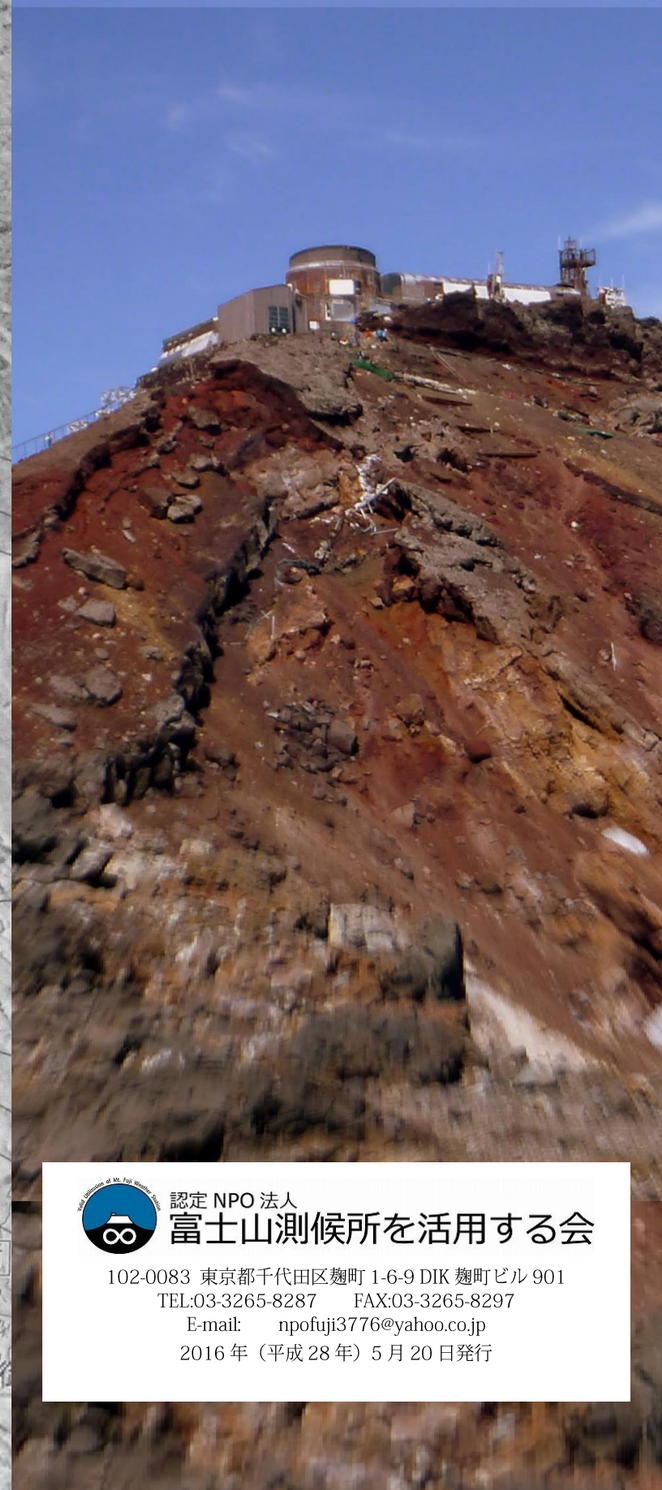
観測拠点としての富士山測候所の強みは、山頂まで商用電源が引かれていることである。電源は山麓から架空線(3.8 ㌔㍍)と地中埋設ケーブル(7.1 ㌔㍍)で山頂に送電されている。電気は、環境省山頂公衆トイレと小山町須走登山口にも分電しており、公共的な役割も担っている。

架空線は雷、風雪や倒木などの自然災害を受けやすく、ネズミなどの小動物が配電盤に入り込んでショートを起こし山頂を半日間停電させたこともある。一方、地中埋設ケーブルは人為的な事故で２年連続して損傷を受けた。

架空線は毎年雪溶けを待ってＧＷ前の４月に定期点検を行い、必要な補修工事を実施している。

埋設ケーブルは海底ケーブルと同じ仕様で万一の事故などによる破損を防止するため、外装鉄線で保護されている。

未来に羽ばたけ
富士山測候所
ー新タイプの研究・教育施設へ



認定 NPO 法人
富士山測候所を活用する会
102-0083 東京都千代田区麹町 1-6-9 DIK 麹町ビル 901
TEL:03-3265-8287　　FAX:03-3265-8297
E-mail:　　npofuji3776@yahoo.co.jp

2016 年（平成 28 年）5 月 20 日発行